

水産おおいた

発行元 大分県漁協

新リース事業 説明会



新リース事業説明会

水産庁の新規事業である平成31年度水産業成長産業化沿岸地域創出事業（新リース事業）説明会が5月16日（木）に会館で開催された。説明会には各支店、団体、本店から46名が出席した。本事業は従来のリース事業等とは仕組みが大きく異なり手続きが煩雑で、県段階に成長産業化審査会、地域ごとに地域委員会を組織することが必要となっている。

改正漁業法に対する 重点要望

全漁連は改正漁業法の運用に係る次の5項目の重点要望を取りまとめた。

- 1 TAC魚種の拡大に当たっては、対象魚種毎に、沿岸漁業における数量管理の具体的方法や漁業経営への影響緩和策、資源評価手法、漁獲量の把握方法等を国が明確に示し、沿岸漁業者の意見を十分かつ丁寧に聴き、理解を得て進めること。
- 2 適切かつ有効でない「場合を明確にし、免許の際の基準とすること。このため、法第91条による指導・勧告に係るチェックリストを作成する等、分かりやすく明確な判断が行えるようにすること。
- 3 新たな漁業権の設定を海区漁場計画に盛り込む場合、都道府県は、

利害関係を有する沿岸漁業者・漁協の意見を聴き、漁場利用に関する紛争の防止が確実に図られる場合にのみ行うこと。

4 保全沿岸漁場を漁場計画に盛り込む場合は、その漁場を利用している沿岸漁業者・漁協の意見を聴き、漁業権の内容たる漁業に係る漁場の使用との調和が確保される場合にのみ行うこと。

5 船舶の規模に関する制限を設けない措置を適用する場合は、国が責任を持って関係漁業者との調整を行い、紛争の防止が確保できることが確認された場合のみ認めること。

改正漁業法の施行には政省令、技術的助言、運用通知などの策定が行われる運びであるが、全漁連には是非とも重点要望等が的確に反映されるよう頑張ってもらいたい。

本田中津市議 今後の抱負!

中津市議になった本田氏から今後の抱負が寄稿

されたので紹介します。昨年12月県漁協の定年退職を機に中津市議会議員選挙（定数24に対し候補者28人）に挑み初当選した本田哲也です。県北地区の漁業は、特に組合員の減少と高齢化が進み深刻な状況の中、3/29魚市場の倒産で激震が走りました。喫緊の課題は、地元水産物の安定供給基地の創設、継続して行うことは若者を対象とした魚食普及活動の推進、そして貴重品である地元水産業（水産物）の広報、さらに産業界連携などによる販売力強化が必要です。これら漁業環境の高度安定化を図るうえで推進母体となる人づくりも大事です。出馬にあたり推薦も頂き36年間お世話になった漁協と水産業の発展に寄与できればと思います。

資源減少の著しい豊前海漁業の活性化など、本県水産業への支援をお願いするとともに、今後の益々の活躍を祈念します。

第39回水産関係親睦ゴルフ大会開催



優勝した戸高吾一郎氏

第39回水産関係親睦ゴルフコンペが5月11日（土）に大分カントリークラブ月形コースで開催された。メンバーは17組65名で、うち女性が2名参加した。競技方法はペリア12方式、打数制限なしで行われた。

優勝は戸高吾一郎氏でグロス91、ネット69。4、2位は清家省三氏でG84、N70。8、3位は狭間敏浩氏でG78、N72。0、大会賞（39位）は阿部義広氏でG85、N76。6でした。グロスの分布をみる

と、70台2、80台16、90台23、100台15、110台5、120台2、130台2名で、実に参加者の63%の41名が100を切っている。

編集後記

5月にはない暑さが続き、熱中症での病院搬送や死亡が報道されている。症状としては、めまいや顔のほてり、筋肉の痙攣、だるさや吐き気、汗の書き方がおかしい、真直ぐに歩けないなどがある。応急措置は、医療機関へ相談または救急車依頼、涼しい場所への移動、衣服を脱がし体を冷やして体温を下げる、塩分や水分を補給する事が大事。予防対策としては、水分のこまめな補給、塩分の補給、十分な睡眠、室内の涼化、日差しをよける、飲み物の持ち歩き、こまめに休憩をとるなどがある。

特に、屋外での作業が多い職員さんは十分に注意してください。